

## 情報学委員会ユビキタス状況認識社会基盤分科会

### 第23期第6回 議事録

(敬称略)

参加者：徳田、山本、原、東野、萩田、木俣、河野、中澤(記)

日時：2017年4月13日 13:30-15:00

#### 議事録

日時：2017年4月13日(木) 16:30-17:15

場所：日本学術会議

参加者：徳田、木俣(遠隔)、萩田、東野、河野、原、山本

資料：  
・提言書ドラフト案  
・前回委員会議事録  
・『医療・健康関連ビッグデータの収集と共有』(東野委員提供)

#### 1. 前回議事録案の確認

- 承認

#### 2. 分科会からの提言について

・「オープンイノベーションに資するソーシャルオープンデータに関する提言」の進捗状況について

- 資料(提言書ドラフト)のレビューを行なった

提案の骨子について

・医療

医療データについて米国は自国仕様を世界戦略として推進している

一方日本では診療科ごとにコミュニティが隔てられており国としての推進が進ん

でないことから

この点を提言に含めることは重要と思われる

- 日本起点のグローバル治験の推進

医療情報のオーナーシップについても触れてはどうか

・ロボット・自動運転

監視カメラ

- ・データの二次利用

商業目的のものは別として

医療、自動運転、障害者サポートのような社会的意義の高いケースについては公共性が高く需要があると思われるので、そうした納得性の高いケースをプッシュ

ユ

していく戦略がありうる。たとえば二次利用レベル1、2、3、、、など。

- ・市民にとっての価値

公共性という軸と、マイクロトランザクションのような経済ロジックでの捉え方も重要

インセンティブとは逆に、想定リスクに触れておくことも重要

- ・自治体（山本）

あまりオープン化が進んでいない

オープン化やデータ利用の目的を明確化することが重要

- ・防災（原）

避難場所、危険地帯、犯罪が多い場所等が出ている事例があるものの、画像やテキスト形式で二次利用しにくい

平時にデータを収集してモデリングしておくこと、平時と災害時のデュアルユースが重要

収集と提供の方法、フォーマット

- ・環境（木俣）

- ・データの品質

著作権保護、個人情報保護等が必要なデータ（合法性保証が必要なデータ）の扱い

炎上リスクを考えると何もできない

## 記述方針

ワクワク度を考慮して書く

有用性の高いケースを優先して記述

4月中を締め切りとする

1ページ程度

3. 分科会主催公開シンポジウムについて

日程：5月23日（火）13:00-17:00（仮）

場所：慶應義塾大学三田キャンパスまたは日本学会議

\*4月末の幹事会での承認が必要

4. その他

特になし